

ICONIP 2025

Asia Pacific Neural Network Society



ICONIP2025 公開フォーラム

人と AI の織りなす社会

2025年11月24日（月、祝）13-16時

沖縄科学技術大学院大学講堂

Webサイト：<https://iconip2025.apnns.org/forum>

開催趣旨

今日AIは誰もがいつのまにか使っている技術となり、私たちの日々の生活からビジネス、教育、政治、文化芸術、最先端の科学技術まで、AI抜きには語れない時代が来ています。このたび世界各国のAI研究者を集めた国際会議ICONIP2025が沖縄科学技術大学院大学(OIST)で開催される機会に、研究者と市民、学生のみなさんとが一緒に、これからAIはどう進化するのか、私たちはAIとどう関わっていけばよいのか、AIによる危険や弊害をどう予測し抑えることができるのか、学び合い話し合う公開フォーラムを開催します。

AI研究開発の先端を走る研究者を講師、パネリストとして招き、それだから見えるAIの新たな地平を語ってもらい、参加者の皆さんと一緒に質疑応答を行います。発表は日本語で、スクリーンにはAI翻訳の英語字幕を表示する予定です。

プログラム：

13:00 開会あいさつ：銅谷賢治（OIST）

13:10 講演1：ここまできた科学者AI：

山田祐太朗（Sakana AI）

13:40 講演2：人とAIの共生する社会とは：

岡瑞起（千葉工業大学、Artificial Life Institute）

14:10 休憩

14:30 パネル討論1：科学するAIと人間社会

コーディネーター：銅谷賢治（OIST）

山田祐太朗（Sakana AI）

濱田太陽（ARAYA）

林祐輔（AI Alignment Network）

15:10 パネル討論2：人とAIの望ましい関係とは

コーディネーター：山川宏（東京大学、AI Alignment Network）

岡瑞起（千葉工業大学、Artificial Life Institute）

谷口忠大（京都大学）

15:50 閉会のことば：谷口忠大（京都大学）

16:00 終了

参加登録：現地/オンラインの参加は無料です。

上記QRコードのWebサイトより事前登録をお願いします。

問合せ先：iconip2025@apnns.org



講師・パネリスト・コーディネーター紹介

山田祐太朗 (Sakana AI)

イエール大学で統計学・データサイエンスの博士課程を取得後、Sakana AI でリサーチサイエンティストを務める。博士課程中に Meta、アレン人工知能研究所 (AI2) でリサーチインターンとして研究に従事。現在の関心は、大規模言語モデル (LLM) エージェント、オープンエンドな探索、自己改良型 AI、科学的発見の自動化など。

岡瑞起 (千葉工業大学、Artificial Life Institute)

博士 (工学)。千葉工業大学 変革センター主席研究員。一般社団法人工生命国際研究機構代表理事、株式会社 ConnectSphere 代表取締役。経済産業省「未踏 IT 人材発掘・育成事業」プロジェクトマネージャー。専門は人工生命、Open-Endedness。著書に『ALIFE：人工生命——より生命的な AI へ』など。AI が企業活動や人間の創造性にもたらす影響を、学術研究とビジネス実践の両面から探求している

濱田太陽 (ARAYA)



神経科学者 (博士)。リサーチチームリーダー (NeuroAI 事業部ペルソナインテリジェンスラボ、株式会社アラヤ)。DeSci Tokyo 代表、Merito Network 科学諮問委員会委員。2019 年 OIST 博士課程修了。Moonshot R&D プログラムの PI として心のモデル化と身体ダイナミクスの解析に従事。研究テーマは全脳ダイナミクス研究や生成 AI によるデジタルツイン。

林祐輔 (AI Alignment Network)



AI Alignment Network 理事／リサーチサイエンティスト。Humanity Brain, Inc. CRO。日本銀行エコノミスト、ナウキャスト チーフデータサイエンティスト、Japan Digital Design (MUFG グループ) シニアリサーチャーを経て現職。AI エージェントの探索と創発に関する理論的研究を発表するなど、人間と AI の共生に向けた理論構築と社会実装の両面から探求している。

銅谷賢治 (OIST, ICONIP2025 大会長)



東大工学部助手から 1991 年 San Diego に移り脳科学を学び、1994 年から京都の ATR で自ら行動を学習するロボットの開発と脳の学習のしくみの研究を行う。2004 年沖縄に渡り沖縄科学技術大学院大学 (OIST) の設立に関わり、2011 年 OIST 開学とともに教授、副学長に就任。2018 年国際神経回路学会 Donald O. Hebb 奨、2024 年 Ironman Hawaii 完走。

谷口忠大 (京都大学、ICONIP2025 プログラム委員長)



京都大学大学院情報学研究科教授。博士 (工学・京都大学)。パナソニックシニアテクニカルアドバイザー、ビブリオバトル協会代表理事、AI ロボット協会理事。言葉の学習とその意味理解のメカニズムを、記号接地問題やシンボル創発という観点から、構成論的アプローチを用いて探求する「記号創発ロボティクス」の分野を開拓。

山川宏 (東京大学、AI Alignment Network)



東京大学博士(工学)。富士通研究所、RWC プロジェクトを経て、2014~19 年 ドワンゴ人工知能研究所所長。現在、東京大学主幹研究員 NPO 法人全脳アーキテクチャ・イニシアティブ代表理事、AI アライメントネットワーク理事。人工知能学会前編集委員長・汎用人工知能研究会主査として学術界を牽引し、脳型汎用人工知能と AI 安全性の先駆者としてポストシンギュラリティ共生学を提唱。